

情報処理の代行やその支援，自律的・協調的な問題解決，インターネット情報検索や統合など広範な分野においてソフトウェアエージェントに関する研究開発が活発に行われています。電子情報通信学会人工知能と知識処理研究専門委員会では，情報処理学会，日本ソフトウェア科学会，人工知能学会のエージェント関連研究会と共催で「合同エージェントワークショップ&シンポジウム（JAWS）」を開催し，エージェント研究に関する先進的な研究成果を発表する場を提供しています。これを踏まえ，情報・システムソサイエティ英文論文誌にて「ソフトウェアエージェントとその応用特集」（2020年12月号）を企画致しました。合同エージェントワークショップ&シンポジウムで発表された研究内容を更に発展させた論文，或いはそれに限らずエージェント技術に関連した論文を広く募集致しますので，奮って御投稿下さい。

1. 対象分野

以下のテーマに関する論文投稿を期待していますが，これに限らずソフトウェアエージェント技術に関する幅広い分野の論文を募集します。

●ソフトウェアエージェントの応用に関わる概念・技術・事例

- ・情報の収集・統合・流通
- ・モバイル通信支援
- ・コミュニティウェア／ソーシャルウェア
- ・インターネット応用システム
- ・協調作業支援
- ・ネットワーク管理・運用
- ・ウェブベースドトレーニング
- ・社会システム／コミュニケーションへの応用
- ・電子商取引
- ・ソフトウェア工学への応用

など

●ソフトウェアエージェントとその応用を支える概念・理論・技術

- ・基礎理論
- ・エージェント間通信プロトコル
- ・エージェントアーキテクチャ
- ・エージェント記述言語
- ・エージェント協調技術
- ・エージェント処理系／フレームワーク

など

2. 論文の執筆と取扱い

- ・通常の英文論文と同一とします。
- ・ページ数は，原則として，論文の場合は刷り上がり8ページ，レターの場合は刷り上がり2ページを標準とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は4ページです。標準ページ数を超えると，掲載料が急に高くなりますので御注意下さい。詳細は Information for Authors (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html) を御参照下さい。
- ・査読後の再提出期間（通常は60日）を短縮する場合があります。

3. 投稿方法

- ・Webによる電子投稿のみ受け付けます。https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx より登録を行って下さい。
- ・初期投稿時に，編集可能な論文本体（TeX/Word），図，著者の写真，biographyも投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Journal/Section”で[Special-SA] Software Agent and its Applicationsを選択して下さい。[Regular-ED]を決して選択しないで下さい。
- ・Webによる電子投稿の際，“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”に承諾して頂きます。

4. 論文投稿締切日 2020年2月1日(日) 厳守

5. 問合せ先

藤田桂英

東京農工大学大学院工学研究院

TEL & FAX [042] 388-7141

E-mail : katfuji@cc.tuat.ac.jp

6. 小特集編集委員会

委員長 清 雄一(電通大)

副委員長 大須賀昭彦(電通大), 福田直樹(静岡大), 藤田桂英(農工大)

委員 吉岡信和(NII), 峯 恒憲(九大), 大冨忠親(名工大), 櫻井祐子(産総研)

7. 付記

* 締切日を厳守して下さい。

* 招待論文を含むすべての著者は、論文が採録となった場合、2020年8月頃に掲載料をお支払い頂くこととなります。2020年9月15日までに支払いが完了しない場合には、採録取り消しとなります。

* 投稿に際しては、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。 <https://www.ieice.org/jpn/join/index.html>

* オープン化：2017年1月号以降に掲載された電子情報通信学会英文論文誌Dのすべての論文を、J-STAGEを通じて全世界の読者へ公開しています。2020年1月号以降に掲載される論文には、電子情報通信学会の多くの論文誌で適用することができるオープンアクセスオプションを適用することができなくなります。(オープン化は、2020年1月以降も継続する予定です。) オープン化とオープンアクセスオプションに関する詳細は、“Information for Authors” (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html) を御参照下さい。オープン化とオープンアクセスオプションに関しては、予告なく変更されることがあります。